

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1 (2)	○事業所と地域の付き合い 自由に散歩に出かけたい方が、1人で出かけ、道に迷う危険があるために現状では、1人お出かけに制限をしている。	地域の方と入居者との馴染みの関係をより深くし、普通の生活でご近所さんとの付き合いのようにできる。	1、定期的に散歩同行する。 2、同じルートを歩き、出会う方には、必ず挨拶や声をかけ、最近引越してきた事をアピールする。 3、サロン、歩く会など地域活動へ積極的に参加し、地域の方に顔と名前を覚えていただくようにする。	12ヶ月
2	4 (3)	○運営推進会議を活かした取り組み 市への働きかけとしては、地域包括の方へ参加呼びかけをしていたが、指導係の方へは運営推進会議参加の呼びかけをしていなかった。	1年間に1～2回程度は、ご出席いただく。	1、2ヶ月に1度の返信はがきを添えて、案内する。 2、会の報告書をまとめ、終了後に送付する。 3、毎月のアミーユ大福新聞を送付し、ホームの生活の様子をお知らせする。	12ヶ月
3	35 (13)	○防災対策 ご近所へ避難訓練開催のお知らせをするが、協力頂けるのは、町内会長さんのみ。1の隣の住宅の皆さんとの協力体制が希薄である。	年2回の消防避難訓練と、年2回の地震想定避難訓練に、近隣住民も参加していただく。	1、避難訓練を広報する。 2、どんな協力をしてほしいか、簡単にしるし、広報する 3、備蓄しているもののお知らせをする。 4、近所の足の不自由な方、独居の方の避難の受け入れができることも広報する。 5、ご近所さんがどのようなことを望まれているか、伺う。 6、日頃からの交流をより深めるようにする。	12ヶ月
4	52 (19)	○居心地よい共用空間作り 全館、すりガラスであり、屋内にいながらにして外を伺いするすべは、窓を開けてみる以外に方法はない。共用スペースも広くないため、閉塞感があり、閉じ込められた感がある。	各ユニットの日中開錠し、自由空間を広げる	1、個別に屋外への散歩実施を行う。 2、ご要望に応じ、窓を開けて、屋外が見えるように配慮する。 3、2階階段ホールを目線の高さのガラスを透明ガラスに変更する。 4、メイン玄関にセンサーマットを設置し、1人お出かけが予測される方の閉塞感を少し緩和させる。	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。